

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	東部地域療育センターぼけっと		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 8日		～ 2026年 1月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	43	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	2025年 12月 8日		～ 2026年 2月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 25
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 17日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域療育センターであるため、事業所内で多職種連携が可能であること。特に、PT,OT,STなどのセラピストや心理士が日常的な生活やあそびの場面を共有し、子どもや保育の話をする事ができる。相談支援事業所もセンター内にあるため、保護者の同意を得たうえで情報共有がしやすいため、相談に対して迅速な対応が可能である。	通園部職員とハビリススタッフ、心理士による連携会議を定期的に実施し、子どもの課題など情報共有に努めている。また、年間を通じて、通園の保育に入って一緒に振り返り、多面的に子どもを捉えて保育に活かしている。	ケース検討の実施方法について意見交換し、実施する。また、日常的に通園部からも相談診療部からも子どもについて積極的に話せる力をつけ、子どものとらえを深められること、連携強化を図る。
2	乳幼児期の子どもたちに経験させたいあそびをたっぷりじっくり楽しめるようにしている。必要な素材を用意し、個々にあそび方やアプローチを工夫している。また、あそびや生活の中で大好きな家族から保育者、お友だちへと人との関わりを広げることが大切にしている。	砂、泥、水などでたっぷりあそべることを大切に、じっくり繰り返しあそべる時間を保障している。季節を感じられるあそびや行事、体験ができることをプログラムに入れている。また、毎日登園し、同じクラス集団、担任との安心できる環境の中で、好きなあそびを通し、好きな人、心地よい関わりを広げている。	引き続き、子どもの姿を捉え、要求や願いからあそびづくりをしていく。親子療育も大切にし、親子で楽しめるあそびづくり、一緒に楽しめる人の広がりも作っていく。
3	家族行事を積極的にとりくんでいる。また、家族行事を実施する際は、きょうだい支援も意識的にとりくんでいる。	保護者が我が子のかわいいところを見つけれられること、一緒にあそんで楽しかったという実感が持てることを大切に、園外に出かける海水浴やそり遊びなどの行事も含め、積極的に家族行事を実施している。行事の際は、きょうだいの保育も大切にしている。今年度は、お父さんの取り組みや交流会を通してお父さん同士の横のつながりも作ることができた。	引き続き、家族行事のなかで、家族と一緒に楽しめる体験や子どもの成長を感じられることを大切にしている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	BCPIの職員への周知がまだまだ不十分であること	BCPIに限らず、事故防止、防犯などのマニュアルも周知が進んでいない。作成していても、ファイルが見やすい場所にないため、日常的に確認がしづらい状況がある。	全ての職員が必要な時にすぐ確認できるよう、わかりやすい場所に保管する。
2	避難訓練は毎月実施しているが、同じ内容になりやすい。	通園部のみでの避難訓練だけでなく、マニュアルで規定している消火班、救護班などセンター全体での避難訓練の実施が課題である。	法人の防災委員会とも連携し、全職員での避難訓練を実施する。また、担当者だけでなく、職員全員が備蓄や予備電源について把握できるようにする。
3	10年が経ち、経年劣化が進んでいる箇所が出てきている。	園庭や築山を覆っていた砂が雨などで流れ、大きな石が広範囲に渡って露出してきている。職員が石を拾っているが、追いつかない状況がある。 今年度は、お父さんたちに協力していただいて、園庭の塀やテラスの床板のペンキ塗りを実施したが、劣化している箇所はある。	新たな土や砂を入れて、園庭の整備を計画的に実施する。 必要な箇所の修繕を順次計画していく。